

# 地域子供会の育成に関する一考察

——現状と今後の課題——

花 田 順 信

## (1)

わが国の近年における産業経済の発展はめざましく、国民生活のあらゆる面に大きな影響をおよぼしている。とくに産業構造の変化に伴う、人口の急激な都市集中化ならびに、マス・コミの浸透、交通網の発達などによる農村の都市化からおこる生活の複雑多様化、生活環境の激変は児童の社会生活への適応を困難にし、非行の増加、交通事故の増加をもたらす一因となっている。

このような社会情勢のなかにあつて児童の社会性を培い、児童を健全に育成する、団体活動の果たす役割があらためて注目されるにいたっている。

ところで、わが国の少年団体は、明治以前、各地にみられた子ども組、子ども連中に、さかのぼることができる。明治、大正、昭和にかけて、各種の少年団体が結成され、その間、合併、分裂、統合などを経て、今日にいたっている。現在活躍している少年団体としては、ボーイ・スカウト、ガール・スカウト、青少年赤十字、海洋少年団、スポーツ少年団、交通少年団等多くの団体があるが、それぞれ団体の設立目的のもとに結成され、独自の集団目標と活動方法をもつて少年の指導訓練を行なっており、少年教育上に占めるその役割は高く評価されなければならないが、これらの団体の活動と「齟齬」をきたさず、しかも網羅的な団体であるということにおいて、地域子供会は独自の地歩を占めているのである。

地域子供会は、地域のすべての子どもを全体として健全に育成することを目標にするもので、町内、字あるいはそれ以下の小単位の地域における近隣の子どもの遊び集団が組織化されたものであるが、参加児童の大部分は小中学校の学童、生徒であるが、中には幼児、高校生、勤労少年等が含まれているところもある。子供会は、昭和40年9月現在、約15万9,000の組織があり、それに約697万人の児童が参加している。子供会の実際活動は、児童の生活に即して遊びが主体となっており、その他社会奉仕、文化、スポーツ、レクリエーション、生産、学習、季節の行事等各種の活動が展開されている。(註1)

しかしながら、子供会を、単なる児童の遊びの集団ということから組織的な児童福祉活動の一環として把握するとき、子供会は、学校と家庭を結ぶ地域社会を接点として、児童福祉の向上をはかる機能集団として、学校における計画的、家庭におけるしつけ教育と相まつて、児童の人間形成の一翼をになうことになる。

児童の校外の生活指導は、これまで少年教育上かならずしも充分でなかったが、社会生活の複雑高度化は、必然的に児童の学校外における指導の重要性をたかめているので、少年教育上それは、大きな部分を占めることになり、従つて校外生活指導の一形態として地域子供会の果たす役割は高いものとなるであろう。

## (2)

子供会は、対策性と教育性に分けて考察することができる。

註 1. 昭和40年度版厚生日書

対策性として、それは救済的内容を意味している。不良非行問題が、社会問題になつてくると、「子供会をつくつて、不良児、非行児をなくそう」と、いう意識が先行し、この施策的目標を実践化しようと努める。

この子供会は、児童を放任することなく「悪い遊び」や「悪い友だち」から救済し、集団組織による集団行動を企画立案してゆく。「よい遊び」と「よい友だち」を探究するための「子供会」をつくろうと努力する、悪い遊び、悪い友だちの代替的なものを求めるが、はたして子供会がそれに答える理念的な対策性をもっているであろうか。

第二に、子供会の教育性についてみると、その具体的内容は「明るい子ども」「じょうぶな子ども」をめざした集団行動を目標にしている。この教育性は、問題児を対象とするのでなく、一般の児童を対象としている。子供会が目標にしやすい「早起きしましょう」「お手伝いしましょう」「勉強をしつかりしましょう」と、いつた個人的生活の規範を、大人が作った子供会という集団の力をかりて啓発しようとする。これらは必ずしも子供会から注文されなくても、学校や家庭から強く要望されていることであり、それも子供会の中で子供の総意にもとづいた話し合いの結果であれば別である。子供会が「みんなと仲よく遊ぼう」と、いつたことを目標にして、話し合いによる実践方法をみいだしたほうが、子供会の意義にかなっているであろう。

余暇利用と生活改善をめざした集団生活の具体的内容をもつた組織的実践のプログラムが、子供会をより価値づけ、教育性をもつことになるであろう。

### (3)

地域子供会は、子ども会、子どもクラブ、少年団などの名称で呼ばれている。これら子供会の地域集団の型態は、大きくは、町会型、PTA型、混合型、さらに有志型の四種類に分けられるであろう。(註2)

そのいづれにしても、子供会は町内に住む一般住民、子供をもつ親、有志の人々によつて支持されている。これらの人々は、自分の子供に対する教育的見識をもちあわせていたとしても、組織的集団としての子供会については全く素人である。町内会やPTA各種団体の代表的役員はそれらの功労者であつても、青少年問題や福祉関係については、まず素人であろう。素人の直観や希望などは、ときには当を得ているときもあろうが、現代つ子といわれる児童集団の組織的運営と活動方法については、不得手である。さらにこれらの人々が、多くは老人であればある程、青少年の集団教育には、無関心が非協力的態度しかもちあわせていない。その反面、地域の政治的活動には熱心であつたりする。

町会役員の中なかでも、子供会づくりをおこなっている例は非常に多い。町会という名のもとに、有志役員個人の熱意にかかつている子供会活動といえる。

一方、PTAの地域活動としての子供会の多くは、PTAの校外生活指導委員会(校外補導委員会とも呼ばれている)の主たる事業の一つとなつている。しかし、いづれの子供会も予想以上に教師の協力が得にくい。

又、もう一つの型として、町会とPTAが混合的に、地域のなかに子供会が存在している状態である。このような子供会は、地域の熱心な世話人や、ボランティアリーダー、町会やPTAの限られた人々によつて支えられている。しかし町会やPTAの幹部役員が積極的に活動していない。

子供会を中心とした地域活動は、青少年の非行化防止、親子の自主的活動の協調性と社交性、地域住民の教育的関心への喚起といったものだけを目標にしているわけではなく、それは

先づ第一に地域住民相互の親和性をねらっている。第二に住民の地域社会への関心と奉仕を期待している。第三に福祉と青少年問題は住民の協力的態勢のなかに是正され発展するものである。このような理念のなかに地域子供会は実在しているのがある。

#### (4)

子供会は、数多くの、しかも解決しにくい問題点をかかえている。

第一に、いつでもどこでもいわれることであるが、リーダーの不足をあげられるであろう。これは、現状のままでは、おそらく半永久的に解決されないであろう。もちろんこのことは「少年団体指導研修会」と、いう名称のものが種々開催されて年中行事化してきている。しかし、思う程の効果があがつているとは云えない。それはなぜであろうか。子供会のための直接的な問題解決になっていないことも一つの事由である。すなわち、子供会の概念、プログラムの作り方、ジュニア・リーダーの指導、ゲームの技術といったことを研修内容としてとりあげてみたところで、子供会が最も必要としている基本的で初歩的な運営組織の子供会づくりにはなっていない。講習会は、子供が集まったときの方法論的な研修が主となっており、子供をどのように集め、構成メンバーをどのようにするか。(子供と一口にいつても小学一年生から中学三年生までを構成員とみなしたり、又は幼児から高校生までを構成員とする子供会ができてくる。)(京都市における子供会に関する調査資料参照)

リーダーになる大人や親たちが、他の大人や親たち、あるいは子供のリーダーと、どのように連絡し協同しあい、活動しあつてゆくか、と云う問題については、実践的解決をみいだすことができないからである。

事実、子供会は、熱心なマニア的な人々にまかせたままになっている。又、ジュニア・リーダーの育成も十分ではない。こうして、リーダーの問題はいつまでたつても解決されないままである。

第二の問題は、子供会の運営は、どこまでも、子どもたちの自治にまかせるのであつて、大人は側面的援助者でなければならない。子どもたち自身の手によつて、その自主性や協同性を見出さねばならない。しかし、とかく大人の子供会であつたり、大人の考えによる行事のおしつけの子供会であつたりする。

筆者が京都市北区待鳳学区の小、中学生 450 名を対象として、子供会に関するアンケートをとつた中に、はつきりこの点について指摘されている。(註3)

さらに、子供会自体からの問題、要求、希望などほとんど無視されがちである。子供会の活動は、構成員のニードに即した活動でなければ永続性が生じてこない。

前述で指摘した様に構成員が小学一年生から中学三年生までを遊び、スポーツ活動、文化活動等一様に活動範囲の中に包含している。

子供会の活動は、グループ・ワークの原則に従い、7、8人から14、5人程度の人数と、年令的には11才頃までのギャング・エイジの自然発生的な集団を、そのまま単位集団とし、数単位の集団をまとめて、地域子供会をまとめてゆかねばならない。中学生以上はクラブ活動的なサークル的な方向にまとめてゆくべきである。

第三の問題は、大人や親たちの感情問題である。地域の住民同志の感情のもつれは、どうすることもできないときがある。又、親たちのわが子に対する近視眼的な児童観、あるいは、地域観が、子供会を左右してしまう。また、子供同志の感情的な問題もある。いろいろな人間感情が、ある地域的雰囲気となつて現われ、子供にとつて好ましくない結果になつてしまつてい

ることが多い。

第四に、子供会の必要性は、関係機関や団体で、かなりつよくとりあげられている。しかし、地域福祉行政、乃至、地域福祉活動を推進してゆくための啓蒙的な提案内容 だけならば、それほど大きな効果を期待しにくくなる。そのため受けとる町会やPTA等にとつては、子供会づくりや育成を「どうやってゆけばよいか」という問題にはならない。また、子供会の責任の所在が、いつも不明確である。なんらの権限も権力も、もっていない。

子供のリーダーがいない、遊び場がない、経費がない、施設がない。まったく「ないないづくし」である。ささやかな要望の解決さえむづかしいのである。地域の実情、子供会を育成する母体集団ないし他の団体、子供会あるいは子供自身、その他多くの関連の事項をふくめて、問題はつきないのである。

子供会の問題は、いろいろの角度から研究され、子供会は子供の問題として放置されることなく、みんなの問題として真剣にとりくんでゆかなければならない。

又、子供会に関する研究、子供会に関する文献資料はいたつて少ない。子供会関係の調査、資料、文献等の充実拡張も又、さし迫つた、重要な問題である。

### む す び

子供会のもついくつかの問題を前項でとりあげてみたが結論的にいえば、子供会は、子どもの集団活動としてのそれと成人の育成活動としてのそれとが判然とセパレートされていないのが実態であるが、これを分離して振興方策を考える必要がある。

どのような類型の子供会であれ、結局はその活動を左右するのは、よき指導者がいるかいないかにかかっている。指導者は一般社会人の中から子どものことをまじめに考える良識ある人になり、職業的でなく本職の余暇に、社会的にいろいろ広い経験のあるこのような有志指導者が専門指導者のよき協力を得て行うときに真の地域福祉の実現をみるものである。

それと同時に子供の健全育成の指導体型の一環として、是非、ジュニア・リーダーの養成に努めなければならない。しかし、ジュニア・リーダーの養成は、あくまで、一つの会の中の、少年集団の班長クラスの育成であり、その資質の向上によつて班活動の円滑化を図るにあつて、成人指導者の肩替りのための対症療法的のものであつてはならない。

未だ歴史的にも新しい未発達の子供会においては、経済面においても、活動面においてもなかなか独立できないのが現状である、このような子供会をよりよく育成援助のためには子供会育成会、後援会等の地域組織が必要である。そしてこの育成会は単に資金面だけの補助のみでなく、指導方針や対社会的活動の上でもつ責任をもになうものでなければならない。従つてただ会員の父母、或は指導者だけの集りでなく、その地域社会で子どもに関係のある良識ある人たち、即ち児童委員、児童福祉司、保護司、学校教育関係者は勿論のことその地域におけるあらゆる団体が進んで加入参加して、地域ぐるみで育成援助を図るべきである。しかしながらこれら育成会が熱心であればある程、とかく指摘されるように大人の子供会であつたりして、前面にできることは子どもの自主性を伸ぶうえにおいて好ましいことではない。とかく子供会の性格がすつきりしないのは子どもの自主的組織であるべき子供会に、成人の指導組織である育成会があまりにも密着しすぎることと、また子供会の指導にあたる者の役割が未分化なことである。この指導者の役割分担が明確になされることによつて子供会の継続的発展がのぞまれるのである。育成会は、子供会の背後にあつて、子供会の活動を促進する条件整備にあたり、或は成員である成人の相互教育的機能を果すことが望ましい姿であり、直接子供の集団である子供会のなかに入りこみ、その運営に細大もらさずタッチするのは、子供の健全な自主性を培うこ

とにはならないのである。このような役割は、いわゆるジュニアリーダーに、その指導を委ねることが、子供会を少年集団として位置づける道である。社会の大人たちは、遠くからあたたかい眼をもつて、間接的なしきも周到な注意と助言を与えることが必要であろう。さらに、子供たちのグループが、健全で楽しい集団行動を自由にかつ安全にやれるような施設の充実と環境の整備は、社会のおとなたちに課せられた義務というべきであろう。

## 子供会等少年団に関する調査資料

### 資料 I

昭和38年3月31日 文部省調

第1表

子ども会の構成別・種別結成数

構成別 種別		小学生中心	中学生中心	そ の 他	不 明	計
実 数	子 ど も 会 (子どもクラブ)	80,884	18,071	17,694	3,381	120,030
	そ の 他	1,286	1,136	501		2,923
	計	82,170	19,207	18,195	3,381	122,953
%	子 ど も 会 (子どもクラブ)	65.8	14.7	14.4	2.7	97.7
	そ の 他	1.0	0.9	0.4		2.3
	計	66.8	15.6	14.8	2.7	100.0

第2表

子ども会の構成別・種別団員数

構成別 種別		小学生中心	中学生中心	そ の 他	不 明	計
実 数	子 ど も 会 (子どもクラブ)	4,426,701	1,421,333	277,511	272,364	6,397,909
	そ の 他	80,314	55,777	33,596		169,687
	計	4,507,015	1,477,110	311,107	272,364	6,567,576
%	子 ど も 会 (子どもクラブ)	67.5	21.6	4.2	4.1	97.5
	そ の 他	1.2	0.9	0.5		2.5
	計	68.6	22.5	4.7	4.1	100.0

第3表

少年育成指導組織構成主体別結成数

主体別	P T A ・ 学 校	婦 人 青年団体	町 内 部 落 会	民間有志	そ の 他	計
実 数	39,529	4,845	34,113	3,701	3,816	86,004
%	46.0	5.6	39.7	4.3	4.4	100.0

資 料 Ⅱ

昭和40年 5 月

京都市教育委員会調

表 1 子供会等の行政区別小・中・高校内訳

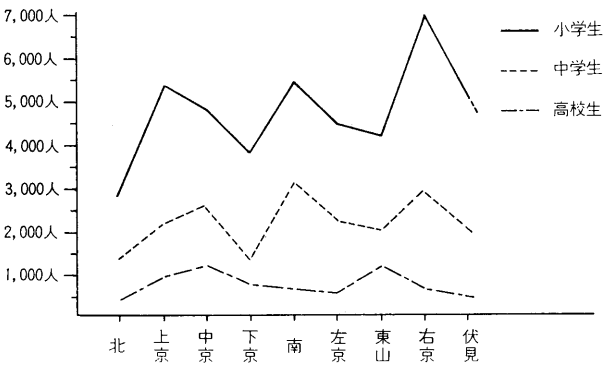


表 2

	北	上京	中京	下京	南	左京	東山	右京	伏見	計
小学校	2,852	5,346	4,882	3,710	5,476	4,436	4,137	6,965	4,911	42,715
中学校	1,311	2,183	2,596	1,299	3,074	2,187	1,955	2,807	1,887	19,299
高等学校	397	940	1,113	781	558	525	1,080	621	424	6,529
計	4,560	8,469	8,591	5,790	9,208	7,148	7,172	10,393	7,222	68,553

表 3 ◇ 子ども会等の人員別内訳

人員別 件数・%	1 10	11 20	21 30	31 40	41 50	51 60	61 70	71 80	81 90	91 100	101 110	111 120	121 130	その他
全市合計	130町	349町	340町	310町	230町	167町	104町	65町	36町	12町	13町	10町	10町	18町
%	7.2	19.5	19.0	17.3	12.8	9.3	5.8	3.6	2.0	0.6	0.7	0.6	0.6	1.0

表 4

◇ 子ども会等における会費

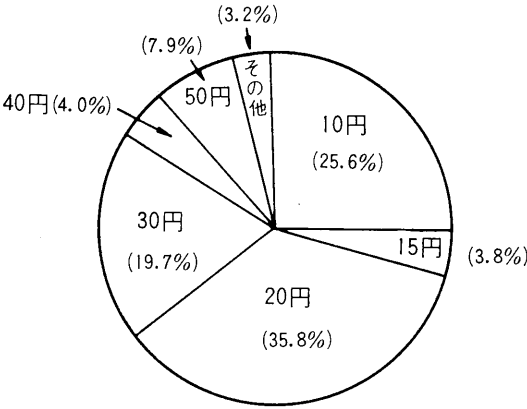


表 5

◇ 子ども会等少年団体を結成されるにいたつた動機について

1. 文化活動の促進	( 8.4%)
2. 学習態度の養成	( 4.9%)
3. 集団意識や行動の養成	(26.5%)
4. 社会環境の浄化	(12.9%)
5. 放任家庭の子女対策	( 2.7%)
6. 長欠児童対策	( 0.6%)
7. 長期休暇（夏・冬）対策	(23.4%)
8. 不良化防止	(19.1%)
9. そ の 他	( 1.5%)

資料 Ⅲ

昭和42年 3 月 京都市北区待鳳学区小・中学生  
花田順信・中島巖共同調査

調査対象（表1）

小学生—待鳳小学校  
中学生—旭ヶ丘中学校

性 別 学 年 別		男	女	計
小 学 生	5 年	61	54	115
	6 年	65	60	125
	小 計	126	114	240
中 学 生	1 年	53	48	101
	2 年	52	57	109
	小 計	105	105	210
総 計		231	219	450





表 3

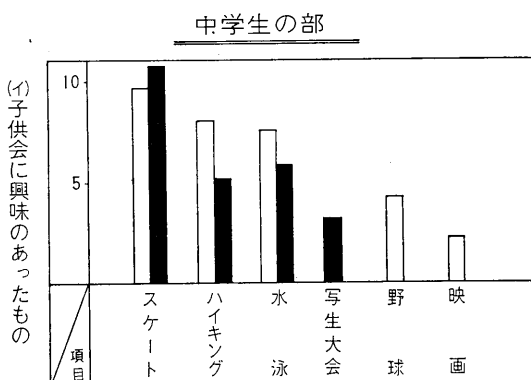
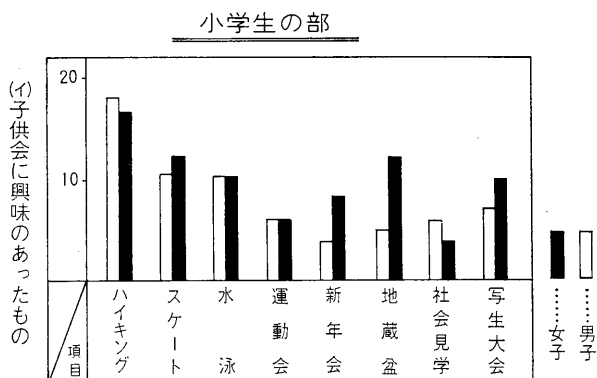


表 4

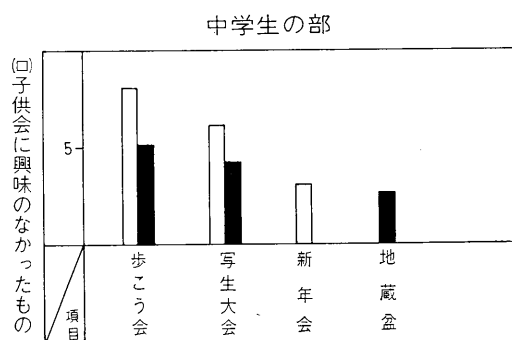
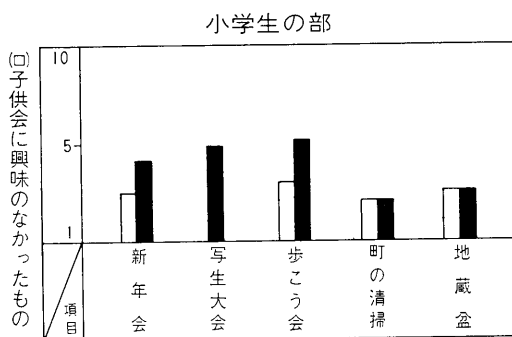
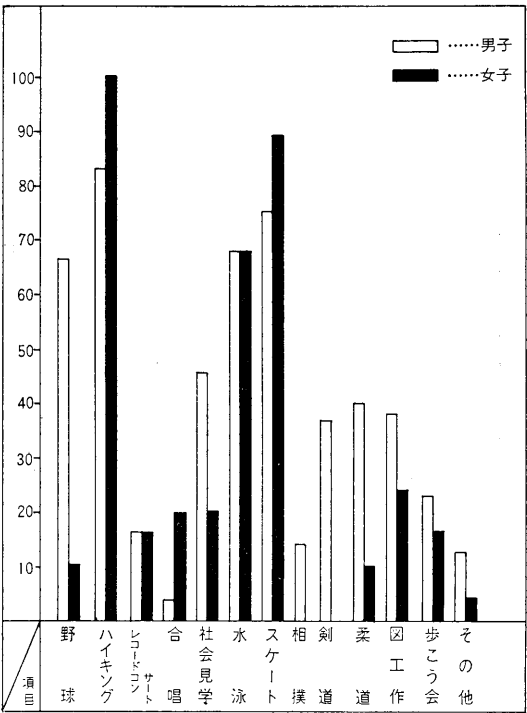


表 5

A 次のどんな種類のものをやりたいですか



中学生男子

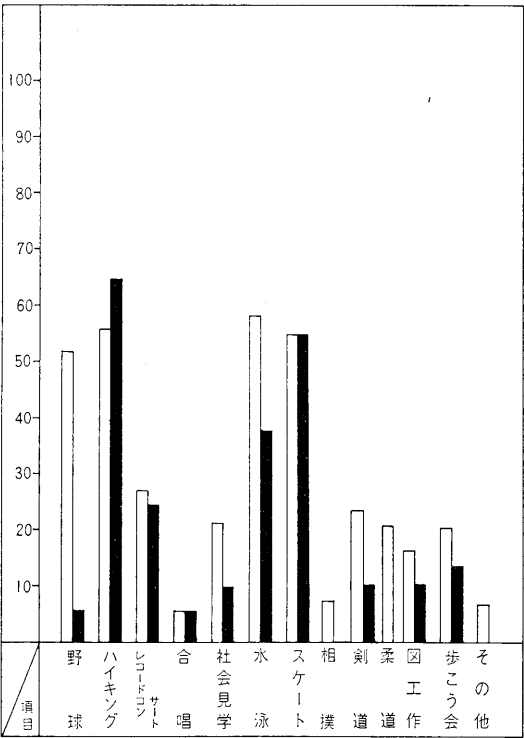


表 6

A 子供会についての意見（小学生）

順位	
1.	どこかにつれてほしい。
2.	子供会をつくってほしい。
3.	もっと子供が集ってほしい。
4.	おもしろく、たのしい子供会にしてほしい。
5.	行事の回数をふやしてほしい。
6.	もっと話し合いをしてほしい。
7.	遊びをたくさんにしてほしい。
8.	ハイキングや社会見学をしたい。
9.	興味のある会にしてほしい。
10.	大人が大変うるさい。
11.	興味が無い。
12.	友達になれる、皆一緒にあそべる会に。
13.	会合は夜でない方がよい。
14.	その他。

B 子供会についての意見（中学生）

順位	
1.	活発に活動してほしい。
2.	面白く、たのしい会にしてほしい。
3.	中学生を中心に行事をしてほしい。
4.	みんながもっと協力してほしい。
5.	興味のある会にしてほしい。
6.	興味が無い。
7.	子供会がないからわからない。
8.	幼稚すぎる。
9.	私達の意見をくんでほしい。
10.	会費が高い。
11.	お盆に金を使いすぎる。
12.	社会見学等をもっとしてほしい。
13.	子供会をつくってほしい。

主 な 参 考 資 料

厚生白書	昭和40年度	厚生省編
青少年白書	1996年版	総理府青少年局編
わが国の社会教育	昭和40年度	文部省編
社会福祉講座 2		社会福祉行政研究会
ソーシャル、グループ、ワーク		服部 正著
コミュニティ・オーガニゼーション概論		牧 賢一著
社会教育 第19巻 1月号		
文部省統計		昭和38年度
京都市教育委員会統計		昭和40年度

